

## 平成 28 年度からの教育研究組織の変更について

東京藝術大学では、平成 28 年度からグローバル人材育成機能の強化を図る観点から、下記のとおり、教育研究組織整備を計画しています。これらの計画については、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査をもって確定するものですが、**平成 28 年度（平成 27 年度実施）の入学選抜は、設置後の入学定員（募集人員）等により実施します。**

**なお、新設する「大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻（修士課程）」、「大学院音楽研究科オペラ専攻（修士課程）」及び「大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（修士課程）」に係る入学試験の出願にあたっては、今後公表する当該入学試験の学生募集要項等をご確認（グローバルアートプラクティス専攻及びオペラ専攻の募集要項は 7 月中旬、アートプロデュース専攻の募集要項は 9 月上旬に配布予定）願います。**

※ ここに記載している設置計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会によって確定するものであり、変更があり得ます。

### 1 設置計画及び入学定員の変更

#### 【設置前（平成 27 年度）】

○美術学部	
先端芸術表現科	<u>30 人</u>
○大学院美術研究科（修士課程）	
絵画専攻	<u>47 人</u>
彫刻専攻	<u>15 人</u>
工芸専攻	<u>28 人</u>
建築専攻	<u>16 人</u>
先端芸術表現専攻	<u>24 人</u>
○大学院音楽研究科（修士課程）	
声楽専攻	<u>20 人</u>
音楽文化学専攻	<u>35 人</u>



#### 【設置後（平成 28 年度）】

○美術学部	
先端芸術表現科	<u>24 人（6 人減）</u>
○大学院美術研究科（修士課程）	
絵画専攻	<u>50 人（3 人増）</u>
彫刻専攻	<u>13 人（2 人減）</u>
工芸専攻	<u>26 人（2 人減）</u>
建築専攻	<u>18 人（2 人増）</u>
先端芸術表現専攻	<u>22 人（2 人減）</u>
グローバルアートプラクティス専攻	<u>18 人（新設）</u>
○大学院音楽研究科（修士課程）	
声楽専攻	<u>12 人（8 人減）</u>
音楽文化学専攻	<u>29 人（6 人減）</u>
オペラ専攻	<u>8 人（新設）</u>
○大学院国際芸術創造研究科（修士課程）	
アートプロデュース専攻	<u>10 人（新設）</u>

#### （募集停止について）

上記の変更に伴い、大学院音楽研究科音楽文化学専攻応用音楽学研究分野及び芸術環境創造研究分野は大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻に、大学院音楽研究科声楽専攻オペラ研究分野は同研究科オペラ専攻に改組するため**当該研究分野の募集は行いません。**

## 2 「大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻（修士課程）」の設置計画

### （1）設置目的

国境を越えたグローバルな視野をもち、多領域に活躍できる一線級の芸術家。とりわけ現代芸術分野において、実践的に現代社会と関係し、我が国独自の制作手法（ジャパンオリジナル）を強みにした新しい芸術の価値を創出し、発信することを推進できる人材の育成を目的としています。

また、社会のニーズを踏まえた地域創生や世界の Social Art Practice の分野で世界を牽引できる芸術家の育成も目指します。

### （2）授与する学位

修士（美術）

## 3 「大学院音楽研究科オペラ専攻（修士課程）」の設置計画

### （1）設置目的

国内はもとより、海外の主要なオペラ劇場やコンサートホール等においても第一線で活躍できる卓越したオペラ人材・舞台芸術家として、オペラ芸術に関する高度な専門的知識や技能を有するとともに、オペラ芸術を総合芸術として捉え、他領域との関係性等、横断的な知見も備えた先進的なオペラ芸術を創造できる人材の育成を目的としています。

### （2）授与する学位

修士（音楽）

## 4 「大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（修士課程）」の設置計画

### （1）設置目的

今日、芸術文化を取り巻く環境は、産業構造の変化やグローバル化、インターネットに代表される技術革新など社会の急激な変化に伴って大きく変容しつつあります。

今回構想する大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻は、この新しい変化に対応するために、専門領域によって分かれている芸術文化のさまざまな実践を横断的かつ有機的に結びつけながら、芸術と社会との新しい関係を提案する人材を育成することを目指しています。

具体的には、①国際美術展や各種地域アートプロジェクト、コンサートホールなどのマネジメントを担える人材。特に芸術文化に精通し、内容に関する企画を含むマネジメントができる人材、②芸術文化の形式の変化、芸術理論の枠組みのイノベーションに対応しつつ展覧会や芸術文化イベントのキュレーションを担当できる人材、③芸術と社会との関係を調査研究し、学術的な発信をグローバルに行なうとともに、アカデミズムだけではなく広く社会に対して芸術と文化の新しい関係の提言ができるリサーチ人材の育成を目指します。

### （2）授与する学位

修士（学術）